

News Letter

2026
Spring issue

令和8年5月25日発行

Japan Society for the Sociology of Sport and Physical Education

2026年4月 第7号(通算7号)
ISSN:2434-4990

年報
体育社会学
社日本
会学体
会育

Annual Review
for the Sociology
of Sport and
Physical Education

contents
2026 No.7

[2026年] volume 07
Japan Society for the Sociology of
Sport and Physical Education Since 2023

■巻頭言 清水 諭

特集論文

下竹 亮志 特集のねらい
梅澤 秋久 体育における共生とウェルビーイングの再検討:
コンヴィヴィアルな関係性に着目して
三上 純 「共生社会の実現のための男女共習」が意味すること:
共生概念の検討を通して

原著論文

Huang Yu-Chi・清水 諭
台湾プロ野球界におけるテクノロジー導入の影響
西村 光太郎・渡 正
体育授業における教師の実践:
机や椅子がない空間でいかにして一斉授業を実現するか

事例報告

御園生 康輔・山本 理人
エージェンシーの生成という視点から見た体育教師
のライフヒストリー:拡張的学習理論を視座として

書評

高橋 豪仁 スポーツの公共圏—運動部モデルからクラブモデル
への転換/永上 博司
木原 慎介 どうして「体育嫌い」なんだろう—ジェンダー・
セクシュアリティの視点が照らす体育の未来/
井谷 恵子・井谷 聡子・関 めぐみ・三上 純
有山 篤利 子どもたちのための体育をつくる哲学—身体・遊び・
テクノロジー/坂本 拓弥

JSSSPE

日本体育社会学会

事務局：〒651-2187

兵庫県神戸市西区学園東町9-1

神戸市外国語大学 常行泰子研究室内

E-mail: jimukyoku@jssspe.org

< 目 次 >

| | |
|---------------------------|----|
| 『年報体育社会学』第7号(2026)の発刊について | 1 |
| 『年報体育社会学』第8号(2027)の発刊について | 2 |
| 日本体育社会学会第4回大会について | 3 |
| 日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会について | 5 |
| 事務局より | 6 |
| あとがき | 11 |
| ちよっと一息、体育社会学 | |

<『年報体育社会学』第7号(2026)の発刊について>

2026年4月1日付にて『年報体育社会学』第7号を発刊し、学会員の皆様方へお届けしているところでございます。

本号におきましては、投稿論文3編(原著論文2編、事例報告1編)のほか、特集論文2編、書評3編を掲載しております。巻頭言をご執筆いただきました清水諭先生をはじめ、貴重な原稿をご投稿ならびにご寄稿いただきました先生方、また、査読の労をいただいた先生方に対し、この場をお借りしまして、改めて心より感謝申し上げます。

なかでも本号におきましては、特集論文としまして、本学会第3回大会時(東北大学)のシンポジウム『学び合い』で共生する体育授業を目指して：中学校と高等学校における体育授業の『男女共習』を考える』にご登壇をいただきました梅澤秋久先生(横浜国立大学)と三上純先生(関西大学)の二名に、シンポジウムでのご発言内容を踏まえた玉稿を作成いただきました。まさしく、体育を取りまくトピック的内容であるとともに、今後の体育社会学研究の方向性をご示唆を賜ることになったと感じているところでございます。

3編の書評を含め、大変充実した学術誌になり得ていると自負するところでございます。ぜひともすべての内容をお読みいただき、お気づきの点等ございましたら、編集委員会宛にお寄せいただければ幸いです。

編集委員長 谷口勇一(大分大学)

<『年報体育社会学』第8号(2027)の発刊について>

ご承知のとおり、年報体育社会学への投稿論文は随時受け付けております。現時点(2026年5月7日)で第8号に掲載が決定されている論文が2編、査読中の論文が3編という状態です。掲載が決定した論文については、下記URLにて早期公開されておりますので、ぜひご一読ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/arspes/-char/ja>

学会員の皆様方に一件お願いがございます。今年度の第8号におきましても、学会員による著書、ならびに学会員にとって有益と思われる書籍を書評として紹介する計画です。つきましては、2025年から2026年にかけて出版された書籍の中で、「これはぜひとも年報体育社会学の書評欄で取り扱ってほしい!」と思われるものがございましたら、自薦他薦を問いません、ぜひともご紹介ください。よろしくお願いいたします(下記、編集委員長谷口のメールアドレスまでお願いします)。とはいえ、ご推薦いただいた書籍が必ず書評の対象になるかはお約束できませんが...。その点、ご了承ください。

委員一同、第8号発刊に向け、誠心誠意、編集業務に努めてまいり所存です。本年度も何卒よろしくお願いいたします。

編集委員長 谷口勇一 (大分大学)
tyuichi@oita-u.ac.jp

<日本体育社会学会第4回大会について>

1. 開催期間

2026年6月27日（土）・28日（日）の二日間

2. 開催形式

対面形式

3. 主催

日本体育社会学会 <https://jssspe.org>

4. 日程

2026年6月27日（土）～2026年6月28日（日）

○—口頭発表（発表15分+質疑10分）

| | 9:00 | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 | 19:00 | 20:00 |
|-----|-------------|-----------------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------|------------------------|--------------------------------|------------------------------------|-------|----------------------|-------|
| 27日 | | 受付 9:30～ 理事会 | 口頭発表① (10:30-11:45) | ランチタイム (11:45-12:45) | 口頭発表② (12:45-14:00) | 移動 | 口頭発表③ (14:15-15:30) | 移動 | 実行委員会企画 シンポジウム (15:45-17:45) | 移動 | 懇親会 (18:00-20:00) | |
| 28日 | 受付 8:30～ | 口頭発表④ (9:00-10:15) | 移動 | 口頭発表⑤ (10:30-11:45) | ランチタイム (11:45-12:45) | 総会 (12:45-13:45) | 移動 | 研究委員会企画シンポジウム (14:00-16:30) | エンディング 表彰 | | | |

5. 開催場所 【総会是对面で開催します】

早稲田大学東伏見キャンパス

〒202-0021 東京都西東京市東伏見 3-4-1 西武新宿線東伏見駅 南口すぐ

6. 発表予定者の重要スケジュール

発表申込開始 2026年4月27日（月）

発表申込〆切 ~~2026年5月18日（月）~~ ⇒ 「2026年5月29日（金）12時」に延長されました。

発表抄録提出〆切 ~~2026年5月25日（月）~~ ⇒ 「2026年5月29日（金）12時」に延長されました。

※大会参加のお申し込みは当日まで受け付けております。

7. 大会参加、及び発表申込み

(1) 大会参加、及び発表を希望される方は、下記、日本体育社会学会（大会）ホームページの専用フォームからお申込みください。

参加申込フォーム：<https://forms.gle/kN4QB8jVXsTp2Kn56>

(2) 発表は、「口頭発表」のみを実施します。

(3) 発表資格は、第1発表者が日本体育社会学会の会員に限ります。また、第2発表者以降には、別途、参加費を申し受けることとします。

(4) 発表を希望する方は、発表抄録を「体育社会学専門領域 発表抄録集執筆要項」を参照し、作成してください。作成された抄録原稿のWordファイルは、下記メールアドレスへご提出ください。なお、発表抄録の著作権は本学会に帰属します。

抄録の送り先：jssspe4th@gmail.com

- (5) 本会では、体育社会学分野における学生の研究を奨励することを目的として、教育機関で専任の職を有する者を除いた大学院生および研究生に対して、「学生研究奨励賞」を授与します。審査を希望する方は「体育社会学専門領域 発表抄録集執筆要項」を参照の上、所定の発表抄録を作成してください。また、参加申込フォームで「学生研究奨励賞エントリー発表をする」欄にチェックを入れてください。

8. 大会参加費と振込先

早期割引：【2026年5月18日（月）〆切】

通常（早期割引なし）：【2026年6月15日（月）〆切】

※これを過ぎての大会参加は、当日現金でお支払いください。

⇒ 以下の種別を参照の上、参加費+懇親会費+弁当代の合計金額をお振り込みください

| 種別 | 早期割引あり | 通常（早期割引なし） |
|-------------------|--------|------------|
| 正会員参加費 | 3,500円 | 5,500円 |
| 正会員（学生・院生）参加費 | 1,000円 | 1,500円 |
| 非会員（一般）参加費 | 4,500円 | 6,500円 |
| 非会員（学生・院生）参加費 | 1,000円 | 1,500円 |
| 懇親会費（正会員・非会員（一般）） | | 5,500円 |
| 懇親会費（学生・院生） | | 3,000円 |

- ・両日、お弁当（1,100円）の注文を受け付けます。大会参加フォームより申し込みください（注文後のキャンセルはできません）。
- ・早期割引は〆切期日までに参加エントリー・入金を済ませた方が対象となり、それ以外の方は通常の参加費となります。

振込先：日本体育・スポーツ・健康学会 体育社会学専門領域
 銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900 店番：019
 預金種目：当座 店名：〇一九 店（ゼロイチキユウ店）
 口座番号：0091547 郵便振替：00120-7-91547

9. 学会大会実行委員会

実行委員長 中澤 篤史（早稲田大学）
 実行委員 木村 和彦（早稲田大学）
 高橋 義雄（早稲田大学）
 星野 映（甲南大学）
 森田 達貴（東洋大学）
 堀田 文郎（早稲田大学）

日本体育社会学会第4回大会実行委員長 中澤篤史（早稲田大学）

<日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会について>

標記の学会大会が下記の内容で開催されます。詳しくは、以下のHPをご覧ください。

■テーマ：地域変革へのスポーツ実践と科学貢献－ウェルビーイング実現に向けた「集まる・つながる共生社会」を目指して－

■会期：2026年8月31日（月）、9月1日（火）、2日（水）

■会場：札幌コンベンションセンター（8月31日）、北翔大学（9月1日、2日）

■開催形式：対面式

■大会スケジュール

◇大会1日目 オープニング／基調講演／本部企画シンポジウム①／専門領域理事会／合同シンポジウム（専門領域学際企画）／口頭発表／情報交換会

◇大会2日目 口頭発表／総会／テーマ別口頭発表／テーマ別シンポジウム

◇大会3日目 テーマ別口頭発表／テーマ別シンポジウム

| | 午前 | | 昼 | 午後 | | 夜 |
|------------------------|-------------|----------|---------------------|-----------------------------|---------------|------------------|
| 1日目 (札幌コンベンションセンター) | オープニング | 基調講演 | 本部企画シンポジウム① | ランチョン 地域連絡会議 専門領域の諸会議 | 専門領域学際企画 | 専門領域別企画 情報交換会 |
| 2日目 (北翔大学) | 総会・表彰式 | 専門領域別企画 | 名誉会員懇談会 専門領域の諸会議 | 専門領域別企画 | テーマ別口頭発表(A,B) | テーマ別シンポ(A,B) |
| 3日目 (北翔大学) | 本部企画シンポジウム② | 専門領域連絡会議 | テーマ別口頭発表(A,B) | テーマ別シンポ(A,B) | 15:40終了予定 | |

■合同シンポジウム：大会1日目（8月31日）13:50-15:10

◇テーマ「保健体育教師に求められる新たな力量形成」

登壇者は、有山篤利氏（追手門学院大学）、鈴木聡氏（東京学芸大学）、朝倉雅史氏（筑波大学）を予定

■専門領域理事会：大会1日目（8月31日）12:40-13:40 札幌コンベンションセンター1階 108

■専門領域総会：大会2日目（9月1日）12:00-13:00 北翔大学7号棟4階 734

■大会参加費：

| 参加費区分 | 会 員 | 非会員 | 学 生 |
|-------------------------|---------|---------|--------|
| ①早期割引 (4月1日～5月27日) | 9,000円 | 10,000円 | 4,000円 |
| ②事前割引 (5月28日～8月30日) | 11,000円 | 12,000円 | 5,000円 |
| ③当日現地受付 (8月31日～9月2日) | 12,000円 | 13,000円 | 6,000円 |

事務局長 常行泰子（神戸市外国語大学）

<事務局より>

日本体育社会学会第4回大会、並びに日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会の申し込みが始まりました。ふるってご参加ください。

1. 2026年度の学会大会について

日本体育社会学会第4回大会は、2026年6月27日(土)・28日(日)に早稲田大学東伏見キャンパスで開催されます。随時ホームページにて最新情報を公開していますので、ご覧いただければ幸いです。

また、日本体育・スポーツ・健康学会大会は、2026年8月31日(月)～9月2日(水)に、札幌コンベンションセンターと北翔大学で開催されます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2. オンラインレクチャーシリーズについて

オンラインレクチャーシリーズ第6回では、井谷恵子先生(京都教育大学名誉教授)より「ジェンダー研究が照らす明日の体育 構造的に男性優位な学校体育を問う」と題してご講演いただきました。続く第7回は、梅澤秋久先生(横浜国立大学教授)をお招きし、「共生の視点を重視した体育のこれまでとこれから」をテーマにお話しいただきました。体育社会学の歴史を紐解き、新たな学問的発展を予感させる先生方のご講演により、終了後も活発な議論が交わされていたことが記憶に新しいです。これをもちまして全7回のオンラインレクチャーシリーズはすべて終了となります。多くの皆様にご参加いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

3. 会員へのご連絡について

会員へのご連絡には、本会のシステム(但し、日本体育社会学会のみ会員の皆様へは事務局システム)を利用しておりますので、随時更新をお願いいたします。登録変更は日本体育・スポーツ・健康学会の下記ページにて手続きを行ってください。また、メールが届いていない方がおられるなどご不明な点がございましたら、事務局までお知らせください。

日本体育社会学会事務局 E-mail jimukyoku@jssspe.org (担当: 常行)

4. 新会員制度と会員募集について

2025年1月より新会員制度が導入されています。日本体育・スポーツ・健康学会に所属されていない方も、理事会の承認を得て会員になることができます。会費は、日本体育・スポーツ・健康学会所属の正会員は年額3,000円、それ以外の正会員は5,000円、学生会員は3,000円となります(名誉会員からは徴収いたしません)。お近くの研究者の方、指導学生などにご周知いただければ幸いです。

5. 『年報 体育社会学』の販売について

『年報 体育社会学』第6号が杏林書院より販売されています。大学図書館などの所蔵として、定期購入をご検討・ご依頼いただければ幸いです。

<https://www.kyorin-shoin.co.jp/book/b10134951.html>

6. 事務局の連絡先

事務局のメールアドレスは以下の通りです。 jimukyoku@jssspe.org (常行)

○2025 年度 日本体育社会学会 第 5 回理事会 議事録

期 日：2026 年 3 月 18 日（水）18:00～20:00

場 所：オンライン開催

出席者：高峰修（会長）、清水諭（副会長）、水上博司（理事長）

石坂友司、石澤伸弘、伊藤央二、大勝志津穂、大沼義彦、下竹亮志、白石翔、高橋豪仁、谷口勇一、中山健、中山健二郎、村本宗太郎、依田充代（以上理事、敬称略、五十音順）

有山篤利、前田博子（以上監事、敬称略、五十音順）

常行泰子（事務局長）、稲葉慎太郎（事務局次長）、（敬称略）

欠席者：甲斐健人、工藤康宏、笹生心太、高橋義雄、中澤篤史、原祐一、宮本幸子、渡辺泰弘、渡正（以上理事、敬称略、五十音順）

司会：水上理事長

議事録：常行事務局長

高峰会長より挨拶があり、年度末の研究活動報告とオンラインレクチャーシリーズ実施状況及び次回大会の開催等について報告があった。清水副会長から、テキスト刊行とオンラインレクチャーシリーズにより体育社会学の整理が進んでいること、今後の国際的ネットワーク構築が課題であることが報告された。水上理事長が、議事の司会進行を務められた。

<報告事項>

1. 2025 年度活動報告について

研究委員会の報告に関して、石坂委員長より第 3 回大会におけるシンポジウム及び日本体育・スポーツ・健康学会第 75 回大会における合同シンポジウム等専門領域活動の実績が報告された。

編集委員会は、谷口委員長より第 3 回大会と日本体育・スポーツ・健康学会第 75 回大会における一般発表抄録集の PDF 化と年報体育社会学第 7 号の投稿状況（特集論文 2 編、原著論文 2 編、事例研究 1 編、書評 3 編）と年度内の刊行予定について報告があった。

学生研究奨励賞は、大勝副委員長より立教大学大学院生である八木一弥さんが授与されたことが報告された。

広報委員会は、村本副委員長より、年間 3 回のニュースレター発行と会員交流企画の開始が報告された。

学会大会委員会からは、本部連携事務局次長の依田理事より、日本体育社会学会第 4 回大会が 2026 年 6 月 27 日（土）、28 日（日）、早稲田大学において開催される予定であり、準備を進めていることが報告された。

国際交流委員会は、石澤委員長より「体育社会学」や「教育現場における今年度の活動計画において体育社会学や教育現場におけるスポーツ活動」をテーマとする海外研究者のリサーチを行い、国際スポーツ科学・体育協議会へ参加を検討している旨及び国際シンポジウムの日程が固まってきており、次年度に報告する計画が述べられた。

オンラインレクチャーシリーズは、昨年 7 月から今年 3 月まで 7 回開催され、アーカイブ動画と文字起こしされた資料を公開している旨、水上理事長より報告があった。常行事務局長より総会開催と大会の準備、さらに現在の会員数が約 360 名であることが報告された。

2. 体育・スポーツ・健康学会第 76 回大会について

石坂理事より、8 月 31 日（月）、9 月 1 日（火）2 日（水）の日程で開催予定であること、体育経営管理と体育科教育学の 3 領域で、札幌コンベンションセンター大ホール（収容 1000 名）を会場とした合同シンポジウムが開催される予定であると報告された。初日午前中に理事会、その後 80 分の合同シンポジウムと一般発表があり、2 日目に口頭発表と総会が開催、3 日目に複合領域のテーマ発表が予定され、スケジュールが確定された旨の報告があった。

3. テキスト出版について

水上理事長より、次回の総会で報告される予定である旨の説明があった。

4. その他 特になし

<審議事項>

1. 第3回大会監査報告について

甲斐大会実行委員長の代理として、常行事務局長より、第3回大会会計報告の説明があり、前田監事と有山監事に監査を行っていただき、すべて適正に処理されたことが報告された。

2. 2026年度活動計画案について

研究委員会より、日本体育社会学会第4回大会（2026年6月28日）におけるシンポジウムの計画が報告された。『体育嫌い』の社会学をテーマに、坂本拓弥氏（筑波大学）、井谷聡子氏（関西大学）、原祐一氏（岡山大学）が登壇し、指定討論者として宮本幸子氏（笹川スポーツ財団、研究委員）が加わる予定である。同委員会は7名の委員が2班に分かれて活動しており、本件については白石翔氏（富山大学）、小坂美保氏（神戸女学院大学）、中山健二郎氏（東海大学）が担当する。

また、日本体育・スポーツ・健康学会における活動として、8月31日午後に札幌コンベンションセンターにおいて、体育経営管理学および体育科教育学との合同シンポジウムが開催される予定である。次期学習指導要領の改定を見据え、テーマは「保健体育教師に求められる新たな力量形成」に決定した。登壇者は、有山篤利氏（追手門学院大学）、鈴木聡氏（東京学芸大学）、朝倉雅史氏（筑波大学）を予定、実務担当者として伊藤央二氏（中京大学）、高橋義雄氏（早稲田大学）、宮本幸子氏（笹川スポーツ財団）が進めている。併せて、2027年2月～3月にかけて、専門領域の研究セミナーを開催する予定である。

編集委員会については、例年通り日本体育社会学会及び日本体育・スポーツ・健康学会の一般発表抄録集の作成に加え、『年報 体育社会学』第8号の刊行を計画している。なお、毎号の特集論文については、研究委員会が実施する2つのシンポジウムのいずれかを取り上げる方針である。

学生研究奨励賞選考委員会からは、2026年度の選考を例年通り行う計画が報告された。

広報委員会からは、年3回のニューズレター発行を例年通り発行する予定である。

学会大会委員会からは、第5回大会の引継ぎと今後の学会大会の在り方について検討を行うことが報告された。

国際交流委員会からは第5回大会での国際シンポジウム開催に向け、研究委員会や事務局と協議のうえ内容を調整していく方針が示された。

最後に、理事長より2026年度の理事会日程（2026年6月27日、8月31日、2027年3月）が提示された。これを受け、事務局からも第4回大会および第76回大会において、対面形式での総会開催を計画している旨が報告された。以上、2026年度の各委員会における活動計画案が示され、審議が了承された。

3. 2026年度予算案について

2026年度予算案は、事務局会計担当である工藤理事の代わりとして常行事務局長から説明があり、日本体育社会学会賞（3万円）を削除、謝金を20万円とする旨の説明があった。石坂理事から、2026年度予算には暫定版決算書が必要であり、役員選挙費用（15万円）を盛り込む必要があるとの指摘がなされた。また、石澤理事からは、国際交流委員会によるオンライン等を活用したシンポジウムの謝金について後日相談の可能性が示唆された。

審議の結果、大幅な変更がない限りは本予算案に基づき事業を進めること、2025年度決算書と併せて2026年度予算（案）修正版を後日メールで共有することが水上理事長より説明され、全会一致で了承された。

⇒ 修正版が工藤理事から示され、後日メールにて理事・監事へ共有予定。

4. その他

(1) 人文・社会学系学会におけるダイバーシティに対する取り組みについて

水上理事長より、他学会におけるダイバーシティへの取り組みを整理した一覧が提示された。これを受け、高峰会長より、多様性への意識向上を学会の成長戦略と位置づけ、積極的に取り組む方針が説明された。具体的には、選挙制度や役員の男女比率、障がい者への対応、託児室の設置、若手研究者への支援および委員会登用等な

どの諸課題が共有されたが、現時点では、これらを規定等に明記している学会は少数にとどまる現状が示された。清水副会長からは、一般社会におけるダイバーシティの範疇で検討を進めると同時に、体育社会学という学問的特性を鑑み、体育・スポーツの現場実態を踏まえた上で検討することの重要性が示唆された。本件に関し、現時点では特段の質疑や反対意見はなく、今後も引き続き理事会において具体的な検討を継続することで了承された。

(2) 日本スポーツ体育健康科学学術連合の入会について

水上理事長より、日本学術会議協力学術研究団体への指定に関する情報共有がなされた。本学会は現時点で指定を受けていないが、過去3年間の大会開催状況等、運営実態を示す書類提出等の手続きを行うことで入会が可能（但し、2026年4月1日より申請受付は一旦停止予定）である旨の情報共有がなされた。入会金（1万円）・年会費（1万円）を要するものの、加盟により企画補助金（5万円）の受給資格が得られる等のメリットがある旨が示された。

また、他の関連団体への加盟検討についても報告され、体育・スポーツ・健康学会やスポーツとジェンダー学会など計75団体が加盟する「人文社会科学系学協会男女共同参画共同連盟（GEAHSS／ギース）」と、理系学協会を中心に政府への提言等を行う「男女共同参画学協会連絡会」（114学協会加盟）が挙げられた。本学会としても、情報共有の観点からこれらの団体へ加盟する必要性が示された。なお、加盟にあたっては総会での承認が必要となる。これに関連して、学術連合の運営委員を務める石坂理事より学術連合の加盟団体は日本学術会議の指定団体であることが望ましい、との見解が示された。あわせて、加盟制度の見直しに伴い、4月1日から申請受付が一時停止される予定である旨が共有された。学術連合への加盟に際しては、内規等の変更が必要となる可能性があるため事前の確認を要するが、加盟後は謝金等に充当可能な経費（5万円）の申請が可能となる。

最後に、GEAHSSの運営について、日本体育・スポーツ・健康学会が本年度の幹事校を務める予定であり、それに伴うシンポジウム開催等の負担が生じる見込みであるとの状況が共有された。

(3) 第5回大会の開催について

第5回大会以降の開催校が未定である現状を受け、例年通りの6月開催を想定する場合、遅くとも8月の総会までに開催地を決定する必要がある旨が報告された。大会の形式であるが、依田本部連携事務局次長より、本会が開催される日程が安定してきたことを踏まえ、大会前日に研究報告会や交流会を開催する等の運用案が提案された。これに対して、水上理事長からは、6月開催に伴う運営負担に言及があり、既存のインフラを有効活用しつつ負担を軽減する方策の必要性が示唆された。

開催時期の見直しについては、高峰会長より研究委員会および編集委員会の負担が指摘されたほか、大学院生への指導スケジュールとの兼ね合いから6月開催の難しさも指摘された。学生研究奨励賞の日程等を考慮し、平日開催や週末開催の是非を含め、本会大会の前日開催を候補とした時期の再検討を行う方針が伝えられた。

また、前事務局長の石坂理事からは、本会大会前後における会場確保の困難さや、日程の長期化による参加者の負担増といった課題が挙げられ、過去の実例に基づいた負担軽減策の重要性が強調された。これを受け、編集委員長を務める谷口理事より、年2回におよぶ抄録集作成を現在は分担して進めてはいるものの、業務を1回に集約できれば大幅な負担軽減に繋がるとの見解が示された。

今後の学会の在り方について、有山監事より本学会が独立したことによる意義と効果について質問がなされた。水上理事長から、若手の発表機会やジャーナルの増加、体育とスポーツの社会学における認知向上などが成果として挙げられ、さらなる利便性向上のためのインフラ投資も検討中である旨が回答された。最後に、高峰会長より、独立開催による学会の成長を評価する一方で、運営の複雑化が教育面に及ぼす影響への懸念が示され、双方のバランスを模索すべきであるとの意見が出された。本件については、中澤理事・依田理事を中心とする学会大会委員会と執行部において、引き続き検討を重ねていくことが確認された。

(4) 学部生ポスター発表の実施要項について

水上理事長より、第1回大会以降の学部生による発表の経緯が説明された。大会実行委員長である中澤理事から事前に意見が出されており、今大会において学部生ポスターセッションは未実施であること、また研究者育成を踏まえたエントリーとして区別せずに実施することも良いのではないか、という提案が共有された。水上理事長からは、検討事項や時間確保の点で今大会の対応は難しく、今後の検討課題になる説明がなされた。大沼理事

からは、規程における学生研究奨励賞や発表及び会員資格等について質問と補足説明があった。高峰会長からは、規程及び過去の総会議事録等を確認し、現時点で学部生は想定していない建て付けとなっているものの、今後のサポートについて検討する余地があるとの見解が示された。

規程検討に携わった石坂理事からは、理事会の審議に基づき登録される学生会員には大学院在学資格を必須としない一方で、学生研究奨励賞の対象からは除外されている現状がある旨、説明がなされた。過去に学部生の発表が少なかったことから、第2回大会よりポスター発表が廃止された経緯も伝えられた。これに関連して、石澤理事からは、第1回大会での創設経緯に触れつつも、大学院生の発表が安定している現状において、学部生枠の必要性については慎重な検討を要するとの意見が出された。水上理事長からは、オンラインレクチャーに毎回4.5名の学部生が参加している実態が報告され、安価な参加費の設定を含め、今後の大会における受け入れ体制を前向きに検討すべき案件であるとの認識が示された。

石坂理事からは、理事会が承認した上で学生会員となる学部生の発表を認める点について言及があった。具体的には、大会エントリー締切日までに理事会が入会を承認すれば発表が可、となる旨が示された。また、学生研究奨励賞については、選考規程内規により対象が大学院生に限定されていることが再確認された。高峰会長は、これらの審議内容に賛成を示した上で、制度の精査と広報の整理が必要となる点について示唆した。以上を踏まえ、執行部において学部生の会員資格および発表条件を検討し、必要に応じて研究委員会や学会大会委員会と協議を行う方向性が了承された。規程との整合性を考慮する必要があり、第4回大会の可否については継続審議となる旨が確認された。

(5) その他

石坂理事より、クォータ制を導入した選挙制度を検討する場合、8月までに所定の手順を踏む必要があるとの指摘がなされた。また、前田監事より、若手・大学院生の発表機会を重視し、ダイバーシティが配慮された多様な参加者が負担なく参加できる環境づくりの重要性が述べられた。また、有山監事からは、社会情勢の変化を鑑み、本学会の存在意義や活動方針を改めて整理・再定義する必要性が強調され、今後の本学会におけるさらなる発展への期待が寄せられた。

次回理事会は、2026年6月27日（土）に予定している。

以上

事務局長 常行泰子（神戸市外国語大学）

<あとがき>

2025年度より笹生心太先生、村本宗太郎先生とともに広報委員を務めることとなりました、東海大学の平賀慧と申します。先生方と一緒に広報委員の業務に携わる中で、学会運営について学ばせていただく機会を頂戴し、大変ありがたく存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

3月末に最終回を迎えたオンラインレクチャーシリーズでは、様々な研究領域から計7名の先生方にご登壇いただきました。そこでは、体育社会学会の会員に限らず、様々な領域の研究者や全国各地の教育実践者の方々が参加なさっている様子を拝見することができ、各テーマをめぐる議論の射程の広さを実感いたしました。また、講演動画や文字起こしをアーカイブ化し共有していただいたことで、より多くの方々がアクセスできる環境を確保していただきました。企画・運営にご尽力いただいた先生方に心より感謝申し上げます。並々ならぬご苦労があったことと推察いたしますが、体育・教育、スポーツ、健康など様々なキーワードをもとに問題関心を共有する方々が、誰も排除されることなく議論できる場の重要性を改めて実感した次第です。

本号では、各委員会の先生方より、日本体育社会学会第4回大会ならびに日本体育・スポーツ・健康学会第76回大会に関する事項を中心にご報告いただきました。いずれの大会においても、皆様と「安心」して議論する場を共有できることを、大変楽しみにしております。また、巻末の「ちょっと一息」のコーナーでは、常行泰子先生（神戸市外国語大学）、宮本幸子先生（笹川スポーツ財団）、村本宗太郎先生（立教大学）にご寄稿いただき、誠にありがとうございました。学会大会での研究に関する議論はもちろんのこと、身近な話題をきっかけに、会員同士での交流が深まっていくことを祈念しております。

今年5月のゴールデンウィーク最終日、磐越道にて痛ましいバス事故が起きました。かつてソフトテニス部員だった私に、そして体育社会学会に所属する研究者に、何ができるのか（できたのか）、問い続けなければならないと感じています。体育・スポーツにおける「安心」とはいかにして構成されるのか、考え続けたいと思います。早稲田大学東伏見キャンパスや札幌・江別の地にて皆様とお会いできることを心より楽しみにしております。

広報委員 平賀慧（東海大学）



プロフィール



神戸市外国語大学教授。修士(健康科学)、博士(学術)。

出身地 兵庫県伊丹市

出身大学・大学院 大阪教育大学大学院教育学研究科健康科学専攻、神戸大学大学院人間発達環境学研究科人間行動専攻

職歴 民間企業と運動指導の現場を経て、高知大学講師・准教授、神戸市外国語大学准教授、2026年から現職

主な業績 常行泰子・柴英里編著書『教育とヘルシーエイジングー持続可能な社会へ向けてー』(晃洋書房、2021年)など。

📖 わたしの研究

●現在の研究テーマ

ヘルシーエイジング/アクティブエイジングに着目して、フィットネスや健康づくりに関するボトムアップ型の研究を幅広く実証的にすすめています。

●研究を始めたきっかけ

祖父が理学博士だったので、研究機器やドイツ語の文献などが身近にありました。運動指導の現場にいる中、理論-実践をリンクする重要性を感じました。

●最近読んだ本・論文

フィギュアスケートLife Extra ミラノ・コレティナ五輪2026(扶桑社ムック)

●その印象を一言で

りくりゆうペアの演技を実際に拝見してからこの本に出会い、フィギュアスケートの現在地がよくわかりました。

●実は取り組んでみたい研究

修士課程は医学系の研究室だったこともあり、現場の実践知を活かせる健康科学の領域にも興味を持っています。

●憧れの研究

ドイツ・米国・中国・ネパール・ロシアなど、様々な国から来られたネイティブの同僚たちと学際的研究をすすめたいです。

🔍 小さい頃のわたし

●熱中していたスポーツ

クラシックバレエに熱中していました。スポーツは控えめでしたが、お友達の試合・大会では大きな声を活かして元気良く応援していました。

●好きだったこと

クラシックバレエやピアノ、声楽、日本舞踊など毎日お稽古事に通っていました。踊ることや人に教えることが好きで、今につながっていると感じます。

●憧れ・スター

デスクワーカーでしたが、70歳代で運動指導者デビュー、80歳代も泊りの出張に出かけて仕事や趣味を満喫する元気な父は、身近な大スターです(笑)

●将来の夢

ダンサーと教員になる子ども時代の夢は、周りの方々のおかげで叶いました。次なる目標は、100歳をHappyに迎えること。



☰ 普段のわたし

●好きな食べ物・飲み物

聞かれたら「まわらないお寿司」と答えることにしています(笑)。ビール会社に勤務していたこともあり、第76回大会では「はまなす館」に伺えるのが楽しみです!

●好きな音楽

ダンスの仕事をしている時はメジャーな洋楽を聞くことが多かったのですが、プライベートはその反動か? 演歌や昭和歌謡を聞いています(笑)

●趣味・マイブーム

最大25cmクラス~小物の青魚を釣ります。愛犬のトイプードル(19歳)も新鮮なお魚を食べてご長寿です。

●最近嬉しかったこと

最近職階が変わり、自分よりも職場の方々や家族・友人の喜ぶ顔を見ることが何よりも嬉しかったです。

●宝物

学会やオンラインレクチャーなど研究活動を通じて、第一線で活躍する研究者に出会える機会は宝物です。

●出身地/居住地の自慢

米国ワシントンD.C.の桜は、兵庫県伊丹市産です。伊丹市はスポーツの町としても有名、今でも遊びに行ってます。

宮本 幸子(みやもと さちこ)

プロフィール



(公財)笹川スポーツ財団 シニア政策ディレクター。修士(教育学)。

出身地 静岡県浜松市

出身大学・大学院 東京大学教育学部、東京大学大学院教育学研究科、東京大学大学院教育学研究科(単位取得退学)

職歴 (株)ベネッセコーポレーション、2016年笹川スポーツ財団に入職、2025年より現職。

主な業績 「ペアレントクラシーの観点からみた中学生のスポーツ機会：運動部活動・スポーツクラブの加入状況および試合出場頻度に着目して」(『スポーツ社会学研究』34(1):5-21)など。

わたしの研究

●現在の研究テーマ

子どものスポーツにおける保護者の関わり。勤務先がシンクタンクなので、自治体の調査、活動量計による測定、国スポの調査など幅広く携わっています。

●研究を始めたきっかけ

自分の子どもが「サッカーを習いたい」と言い出した際、母親である私が反射的に「私が無理だ」と思った経験を相対化したかったため。

●最近読んだ本・論文

團康晃『休み時間の過ごし方：地方公立中学校における文化とアイデンティティをめぐるエスノグラフィー』(烽火書房、2025年)

●その印象を一言で

ありふれた休み時間の光景が研究対象になること、徹底的なフィールドワークと緻密な解釈でここまで豊かに描けることに驚かされました。本著を読んで学校に行くと、何もかもが観察対象として気になります。

小さい頃のわたし

●熱中していたスポーツ

球技全般が苦手な、消去法で陸上部に入りました。今でも観戦は好きです。

●好きだったこと

ピアノ・読書。茶畑やみかん畑がある田舎だったので、毎日その辺で遊び倒していました。

●憧れ・スター

地元の1学年上にジャズピアニストの上原ひろみさんをはじめ、現在も第一線で活躍される音楽家が複数いて、皆様小さい頃からかっこよかったです。

●将来の夢

都会で働くこと。

●人生の転機

大学で苧谷剛彦先生(教育社会学)のゼミに入ったこと。課題が多くて何度も徹夜しましたが、考えることの奥深さや面白さに感動し、それまで一切興味がなかった大学院・研究という選択肢ができてしまいました。

普段のわたし

●好きな食べ物・飲み物

日本酒

●最近嬉しかったこと

サッカーを習わせてあげられなかった息子が、吹奏楽部で毎日楽しそうに活動していること。文化部男子たちをみると、「男子＝スポーツ＝かっこいい」というラベリングは子どもたちの世界を狭めるようでもったいないと感じます。

●出身地／居住地の自慢

日本で2番目に大きい市です。海～浜名湖～山まで自然に恵まれ、様々な産業が発展した音楽の街です。都会に憧れた若き日々から一転、今は戻りたくてたまりません。「主な業績」論文の元になった調査は6名の共同研究ですが、うち3名が浜松市(の同じ高校)出身で嬉しかったです。





プロフィール



立教大学スポーツウエルネス学部助教。博士(スポーツウエルネス学)。

出身地 静岡県浜松市

出身大学・大学院 立教大学法学部、立教大学大学院コミュニティ福祉学研究科(博士課程前期課程・博士課程後期課程)

職歴 常葉大学助教を経て、2023年から現職。

主な業績 「部活動における『指導的暴力』と保護者の受容意識」(『スポーツ社会学研究』34(1):39-53)など。

わたしの研究

●現在の研究テーマ

スポーツと暴力、特に青少年スポーツでの指導者から選手に向けた暴力問題をメインの研究テーマとし、セーフスポーツのあり方について研究を進めています。

●研究を始めたきっかけ

中学のバレーボール部の練習試合で、対戦相手の生徒がタイムアウト中に拳骨を受けているのを見て、スポーツのミスでなぜ殴られなければならないのだろうと思ったことがきっかけです。

●最近読んだ本・論文

サルマル・カーン『AIは私たちの学び方をどう変えるのか』(東洋館出版社、2025年)

●その印象を一言で

もはやAI抜きの社会は考えられないと思います。魔物はもう瓶から解放された、瓶は捨てて生成AIへの恐れも手放すとき、とは筆者の言ですので魔物に食われないように、自身の付き合い方の規範を定める必要があるように思いました。

●実は取り組んでみたい研究

スポーツハラスメントと呼ばれる問題すべてについて運動させながら研究を進めたいと考えています。高峰修先生が2013年に示された連関図を解き明かすイメージです。

小さい頃のわたし

●熱中していたスポーツ

小学校は水泳部に、中・高はバレーボール部に所属していました。ただ観るのは野球・サッカーが好きでした。

●好きだったこと

NINTENDO 64の野球・サッカーのゲームをするのが好きでした。ポケットモンスター(緑)も好きでした。

●憧れ・スター

サッカーの三浦知良さん、小野伸二さん。スターと考えるとこのお二人です。

●将来の夢

中学校の社会の先生です。部活動の顧問もしてみたいと思っていました。

●人生の転機

進路希望を法科大学院からスポーツの大学院に転換して松尾哲矢先生の元で学ぶことになったときです。当時は松尾先生の研究テーマもよく知らない状況で相談に行き、今考えるとよくお時間を頂けたなと思います。



普段のわたし

●好きな食べ物・飲み物

麺類全般。池袋は魅力的な店が多くて楽しいです。最近は麻辣湯の店が急増していますが、客層、注文の仕方等、興味深い店内空間だなと思います。

●好きな本

塩野七生さんの「マキアヴェッリ語録」。自分の状況に応じて刺さる言葉が異なるので定期的に読み返しています。クロマツテツロウさんのマンガの「ドラフトキング」「ベー革」も好きです。

●好きな音楽

映画カイズのメインテーマ。博士論文最終年はやるしかないという感覚で毎日聞いていました。思い出して泣けます。

●趣味・マイブーム

ボードゲーム。個人所有が500を超え1Kの部屋では限界を迎えています。一番好きなゲームはディクシットです。自分でも作ってみる予定です。

●最近うれしかったこと

仕事の一環で、ボードゲーム界で非常に有名な山形県のご住職と話をすることができたことです。

●出身地／居住地の自慢

温暖で、海あり、山あり、湖あり、人口あり(78万人)、強豪アマチュアチームあり(ヤマハ野球、Hondaサッカー)と恵まれた地域だなあとと思います。プロフィールの写真は地元での仕事の一環です！